



TMS から AI サービスに移行する理由

TMS から AI への移行に関するケース スタディ

AI が日常に浸透した現在、グローバル市場で世界のトップブランドとの競争に勝ち残るためには、サードパーティ製の翻訳管理システム (TMS) だけでは不十分な時代に突入しています。本ガイドでは、業界の主要企業がローカリゼーションと翻訳のワークフローを従来の TMS から AI コンテンツ オーケストレーション プラットフォームに移行するのをライオンブリッジが支援した事例とそのメリットを、4 つのケース スタディを通じてご紹介します。

ケース スタディ 1 TMS の廃止と、それに伴う大幅なコストと労力の削減



お客様: 世界的な消費者向けブランド

課題

- 有償のサードパーティ製 TMS を自社で運用・管理することへの負担
- 社内のローカリゼーション チームやレビュー担当者の維持・管理コスト
- すべてのワークフロー、翻訳資産、承認プロセスを自社で処理することによる負担
- 継続的な TMS ライセンス料、ホスティング費用、メンテナンスによる高額なコスト

解決策

- 自動化、規模の拡大、および AI を主軸に据えたローカリゼーションに向けた全社的な取り組みの一環として、TMS の利用を廃止
- ローカリゼーション業務をライオンブリッジへ全面的に移管
- 制作およびレビュー環境を一元化する Lionbridge Aurora AI™ を新たに導入

メリット

- ライオンブリッジがワークフローからオーケストレーション、翻訳メモリ、用語集、プロンプト、品質保証 (QA)、レポートまでの管理を包括的に担うことで、お客様のチームは最優先で取り組むべき重要課題に専念することが可能に
- ローカリゼーションワークフローに AI による自動化を全面的に取り入れることで、「AI の活用」という取締役会からの要求に対応
- サードパーティ製 TMS のライセンス費用やホスティング費用の削減により、数千ドル規模のコストカットを実現

ケース スタディ 2 STAR TRANSIT からのシームレスな移行



お客様: 世界有数の自動車ブランド

課題

- サードパーティ製 TMS である Star Transit の利用および維持コスト
- 主要な言語資産 (TMS や用語データベースなど) の保守・管理に伴う負担

解決策

- 制作業務および TM の管理を、Star Transit からライオンブリッジのシステムに移行
- ライオンブリッジが、大規模な TM 資産を Star Transit から自社システムにシームレスにエクスポート

メリット

- ローカリゼーションと資産管理を外部委託したことにより、お客様のチームは保守・管理に費やしていた数千時間をビジネス上不可欠な業務に充てることが可能に
- Lionbridge Aurora AI™ の導入による、制作ワークフローと言語資産管理の自動化を実現
- ライオンブリッジが TM の構造最適化、クリーンアップ、優先順位付け、および再利用ロジックを管理
- 制作、品質保証 (QA)、納品ワークフローの煩雑な運用からの解放
- Star Transit のホスティング料およびメンテナンス費用を削減したことで、数千ドルのコストカットを達成

ケーススタディ3 ローカリゼーションベンダーの一本化により、 ベンダーとTMS管理コストを削減



お客様: 大手データ管理ソフトウェア企業

課題

- 複数のベンダーが混在するローカリゼーションモデルの管理の負担
- サードパーティ製TMSの運用・保守に伴うIT部門の数千時間もの労力
- 数万ドルにも及ぶサードパーティ製TMSのライセンス料およびメンテナンス費用の支払い
- TMSのローカリゼーションワークフロー処理に費やされるローカリゼーションチームの膨大な作業時間

解決策

- ローカリゼーションベンダーをライオンブリッジに一本化
- 従来のサードパーティ製TMSを完全に廃止

メリット

- 以下の基幹業務の管理をライオンブリッジに委託したことで、より重要度の高いビジネスプロジェクトに投資する時間が数千時間も増加:
 - プロジェクト管理
 - 言語資産
 - 自動化
 - 各種レポート
 - 言語資産のガバナンス
- ベンダーをライオンブリッジに一本化したことで、大規模な翻訳とローカリゼーションに対する大幅なボリュームディスカウントが適用
- 高額なTMSのメンテナンス費用とライセンス料が一切不要に

ケーススタディ4 XTMからAIへの移行により、時間とコストを 大幅に節約



お客様: 世界的なデジタルコミュニケーションプラットフォーム企業

課題

- 複数のローカリゼーションベンダーを管理するためのXTM利用に伴う負担
- XTMの維持費用とライセンス料の発生
- 複数のベンダーに分散した大量のローカリゼーションワークフローにおいて、進捗状況の把握やレポート作成が困難

解決策

- ベンダーをライオンブリッジに一本化
- AI活用型のワークフロー推進に向け、従来のXTMから制作環境を移行
- お客様の翻訳メモリを、ライオンブリッジが当社独自のシステムにシームレスに移行

メリット

- すべてのローカリゼーションプロジェクトを単一のベンダーに集約したことで、年間数万ドル規模のコストを削減。またライオンブリッジが以下の業務を一元管理:
 - ワークフローオーケストレーション
 - 言語資産
 - 自動化と品質評価の運用
- 制作、機械翻訳(MT)/自動ポストエディット(APE)、QAおよび納品プロセスにかかっていた数千時間もの工数を削減
- TMSのライセンス料とメンテナンス費用の削減により、ローカリゼーションと翻訳全体の予算を40%削減



詳しくはこちら

[LIONBRIDGE.COM](https://lionbridge.com)